

令和7年度

学校関係者評価委員会報告書

令和8年3月31日

学校法人ファースト学園
専門学校ファースト学園金沢校
学校関係者評価委員会

目次

I. 学校関係者評価の実施

- (1) 学校関係者評価の概要
- (2) 学校関係者評価委員会委員名簿
- (3) 学校関係者評価委員会日程
- (4) 学校側出席者名簿

II. 学校関係者評価の結果

- (1) 重点目標に関する評価・意見
- (2) 評価項目ごとの評価・意見

I. 学校関係者評価の実施

(1) 学校関係者評価の概要

学校の教育目標、計画に沿った取り組みの達成状況、学校運営等への取り組みが適切に行われたているか自己評価を行う。また学校運営等の課題について、継続的に改善を図り、その結果を公表する。

「学校関係者評価委員会」は自己評価結果の客観性・透明性を高め、設置学科に関連する企業・団体、卒業生、保護者などと学校活動に関し理解促進を図り、継続した連携協力体制を確保することを目的として組織する。委員は、業界関係者、卒業生、保護者等学校関係者から選任規定に基づき選任し「学校関係者評価」を実施する。委員会の評価結果及びの助言、意見は学校運営の改善に活用される。

この評価結果と改善への取り組みを本校ホームページに掲載する。

(2) 学校関係者評価委員会委員名簿

氏名	所属	選出区分
西川 珠紀	第一学院高等学校金沢キャンパス	高等学校
坂本 博	北安江居住	地域住民
竹田 太志	株式会社C8LINK 代表取締役	関係業界
曾福 都美	ホクショー株式会社	保護者
山下 周市	日本海電化鋳造株式会社	卒業生

(敬称略 順不同)

(3) 学校関係者評価委員会日程

1. 令和7年6月26日(木) 18:00~20:00
2. 令和8年2月20日(金) 18:00~20:00

(4) 学校側出席者名簿

氏名	所属
加藤 泰博	学校長
山上 むつき	副校長兼情報システム科・情報ビジネス科 学科長
片口 瑞穂	グローバルコミュニケーション科 学科長
南 忠志	事務局長
荒田 真一	情報システム科 主任
羽場 和馬	広報課 主任

II. 学校関係者評価の結果

(1) 重点目標に関する評価・意見

1. 教育内容の質向上	
【評価】 3	
【意見】	
	<ul style="list-style-type: none">・課題解決型の授業の実施が求められており、授業にとりいれている。(片口委員)・グローバル化に合わせて、ビジネス英語は大切。留学生はそれに加えてビジネスに必要な日本語力を身につける必要があるため、検定試験の実施などはよい。(竹田委員)・企業や社会では主体性が求められるようになってきており、教育内容を改善する取り組みをさらに進めている。(山上委員)・企業のニーズと学生のニーズを把握しカリキュラムに落とし込む必要があり、継続して進めてほしい。(竹田委員)・修学支援新制度の認定は、保護者としては助かる。(曾福委員)・高等教育を受けるための日本語力と日本語を使った課題解決能力を向上させ、学生オートノミーを促す中・高等学校でも言われている学生オートノミーの育成に取り組んでいる。(片口委員)・主体的な教育という点では留学生の方が積極的なので、課題などで日本人学生が留学生と関わることで成長するのではないかと。(竹田委員)
2. 教育サービス環境の整備	
【評価】 4	
【意見】	
	<ul style="list-style-type: none">・入学前から卒業までのサポートを充実させる取り組みをしており、要望や不安、生活などを聞き取りし教職員で共有していき安心して入学してもらうようにしている。(山上委員)・情報の公開がデジタル化していく中で、あえてアナログな情報掲示を行う一環として、掲示板の情報を拡充した。(南委員)・教職員と学生、また卒業生などが共通したツールを導入し、より情報を共有していく仕組みを作る取り組みを行っていく。(羽場委員)・同窓会の名簿管理、同窓生とのつながりを強化していく。(羽場委員)・卒業生とのつながりは大切。ぜひ強化をしていってほしい。(西川委員)
3. 教職員の質向上	
【評価】 3	
【意見】	
	<ul style="list-style-type: none">・他学科・他部署の内容を理解し、業務対応力を上げ、さらに学科を超えた協力体制を作っていく。(山上委員)・日本語学校は4つのランクがあり、当校はクラス1であり、これを維持するために質の維持に努める。(片口委員)・アンケートを活用し授業の改善に役立てていった方がよい。(竹田委員)・日本語教育の在り方が変わってきており、Can-do という課題遂行や ICT 活用等研修などへ積極的に参加している。(片口委員)
4. 広報活動の標準化	
【評価】 4	
【意見】	

	<ul style="list-style-type: none"> ・各部署との連携で学校イベントの魅力を上げ訴求力を高めていく。(山上委員) ・さらに学科主体の学生活動の発信と高校への認知拡大を行う。(羽場委員) ・現在、留学生の主要国は4カ国だが、もう少し多様化を進めていきたいので、エージェントとのつながりを広げていくようにしている。(片口委員) ・多国籍の環境は日本人学生にとって魅力があり、ぜひ交流をさせていきたい。(西川委員) ・町内会に働きかけてイベント情報を共有してもらうことや学校のイベントを紹介してはどうか。(坂本委員) ・学園祭に町内会の方が来ていただいたことにより、町内会の新年会でミャンマーの学生が踊りを披露する機会をいただけた。今後も取り組んでいきたい。(片口委員)
5. キャリア支援の強化	
<p>【評価】 4</p> <p>【意見】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の教職員で連携し就職対策を行っている。(山上委員) ・就職は学生が主体的に行っていくようサポートをしている。(山上委員) ・学生一人一人に対応していただき感謝している。卒業時に学生の成長が見られた。(西川委員) ・留学生を取り巻く環境が大きく変化しているので、就職、進学でも対応に苦慮している。今後も学生のニーズに答えられるように対応していく。(山上委員)
6. ガバナンスの強化	
<p>【評価】 4</p> <p>【意見】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リアルタイムに社会にニーズに対応し、スピード感を持って学校の運営を行っていく必要がある。(竹田委員) ・学校運営の見直しを行い、学科新設なども含めた聖域のない学校運営を意識し調査を行い実施していく。(南委員)
8. その他	
<p>【評価】</p> <p>【意見】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災放送を留学生が理解しているかが心配。存在を知らせておく方が良いのではないか。大雨警報をはじめとした放送の意味を理解させておくだけでもよい。(坂本委員) ・スライドを用いた説明をした方がわかりやすいのではないか。(中山委員)

(2) 評価項目ごとの評価・意見

(1) 教育理念・目標	
【評価】 4	
【意見】	
	<ul style="list-style-type: none">・高い理念と適切な目標を定め、実践されている。(竹田委員)・効果的測定を明確に出来ない目標について、ルーブリックをどう設定するかという点はとても難しいと感じる。ただ教育の質向上には、必要だと思うので、改善として位置づけは妥当と思う。(西川委員)・企業との実践的な授業が積極的に行われている点は評価できる。(竹田委員)・ニーズを踏まえた改善を継続的に行っているのは評価できる。(曾福委員)
(2) 学校運営	
【評価】 4	
【意見】	
	<ul style="list-style-type: none">・現状の課題を正しく理解・把握し、改善方法を打ち出している。(竹田委員)・留学生に対する防災対策などがまだ不足しているので今後より取り組んでいきたい。(山上委員)・学生に寄り添う教育活動はとても魅力があると感じている。もっと地域社会に伝えていくことで、共に教育を支えあえる学生が地域の方たちと関わることができるのではないかと感じる。(西川委員)・卒業生との係わりをより積極的に行っていけばよいのではないかと。(山下委員)
(3) 教育活動	
【評価】 3	
【意見】	
	<ul style="list-style-type: none">・AIを利活用できるプログラム基礎知識は必須。あとは実績の数、トライ&エラーの数が力になるので、自主的な学びの強化をする必要がある。(竹田委員)・認定校目指し認定基準を高めることで、新たな目標値が設定され、高い教育水準に進んでいると感じる。(竹田委員)・今後、技術革新にむけて新しい学びも必要になると感じる。教育全体がこれからどのように新しい技術と共に変化していくか、とても難しいと感じている。(西川委員)・日本語教育機関は管理管轄が文科省へ変更になり、より教育の質向上が求められ、教育課程の編成において根本的な改革が必要であり、申請準備を進めていかなければならない。(片口委員)
(4) 学修成果	
【評価】 3	
【意見】	
	<ul style="list-style-type: none">・卒業後も成果を見ていく必要があり、卒業後の状況把握はなかなか難しいかと思うが継続して把握に努めてほしい。(竹田委員)・キャリア形成について学生一人一人に対応して頂けてありがたいと感じている。(曾福委員)・言語スキルについては、どの教育分野でも現在の課題である。文章理解能力の向上、言語化等についても学ぶ機会が必要だと感じた。(西川委員)・学習成果を評価する仕組みを改善する必要がある。(山上委員)・教育の効果測定の1つとして、卒業後の離職率や就職率があると思う。卒業後の状況を把握するのは教育の質向上に重要だと感じる。(西川委員)・英語学習も含め、複数言語の習得に取り組むことにより社会に求められる人材として活躍できる場が広がるので、さらに言語学習にも力をいれていきたい。(山上委員)

(5) 学生支援	
【評価】 4	【意見】
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人と留学生が深く関わり、楽しめる学生生活への工夫が見られる。(竹田委員) ・年間スケジュールの充実により、支援がなされていると感じる。(竹田委員) ・貴校の手厚いサポート、卒業に向けての学習支援は、高校としても常を感じている。貴校の強みとして、ぜひ継続して欲しいと思っている。(西川委員) ・学生によりそう姿勢には保護者としてありがたいと感じている。(曾福委員)
(6) 教育環境	
【評価】 3	【意見】
	<ul style="list-style-type: none"> ・学生数の増加や多様性に伴い対応が難しくなっているとは思いますが改善を適宜に対応して欲しい。(竹田委員) ・留学生が多くなったことにより、より防災教育に力を入れる必要があると思う。(坂本委員) ・一人ひとりの生活にあわせた学校の環境を整えようとされているのはとても良いと感じる。その姿勢が強みの一つでもあると思う。(西川委員) ・毎年、少しずつ教育環境を整えていっている。今後も継続して取り組んでいく。(南委員)
(7) 学生の受入れ募集	
【評価】 3	【意見】
	<ul style="list-style-type: none"> ・定員充足率は低くないので、特別に悪いわけではないが、狙い通りの学生や人員の獲得につなげる工夫が必要と思われる。今までの広報以外での発信方法を試していくとよいのではないか。(竹田委員) ・ホームページの多言語化を進めてみてはどうか。(竹田委員) ・まだホームページと募集要項の多言語化が出来ていないので次年度はぜひ進めたい。(片口委員) ・今年度は在校生がオープンキャンパスに積極的に参加してくれた。今後も高校生のニーズに対応したオープンキャンパスを行っていききたい。(山上委員) ・広報活動も必要だが、教育の変換点を迎えている今、教育の質、今後の社会の必要な学びに照準を合わせて教育活動を展開することで学生募集の改善に繋がるのではないかと感じる。(西川委員)
(8) 財務	
【評価】 4	【意見】
	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化が進む中、教育期間全体でも、定員充足には不透明な状態。教育業界全体でも今後の課題になっていく案件ですので、ぜひ継続的に加太に向けて取り組んでいただきたい。(西川委員) ・日本人学生の確保のために対策などを打ち出す必要がある。(竹田委員)
(9) 法令等の遵守	
【評価】 4	【意見】
	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に行われていると思う。(竹田委員)
(10) 社会貢献・地域貢献	
【評価】 3	【意見】

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の夏祭りなどに参加するなど地域との連携を深めてみてはどうだろうか。(坂本委員) ・地域イベントや貢献活動を行っているが、さらなる取り組みの強化をした方がよい。(竹田委員) ・自主開催イベントを行っており、学生にも参加を促すことが出来ている。(竹田委員) ・町内のイベントに参加できて学生にとって良い経験になった。(片口委員)
(11) 国際交流	
	<p>【評価】 3</p> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地へ訪問や英語対応できるスタッフの配置など積極的に進めている。(竹田委員) ・積極的に進めている。さらに広げていく予定。(山上委員)
(12) 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	
	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし
その他	
	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に新しいことに取り組んでいる姿勢は評価できる。(竹田委員) ・学生がオープンキャンパスを楽しみにしている。学生に寄り添った対応は大変ありがたい。(西川委員)